

令和7年度 麗澤幼稚園 自己評価

麗澤教育の理念

麗澤教育は、創立者廣池千九郎が提唱した道徳科学「モラロジー」に基づく知徳一体の教育を基本理念とし、学生生徒の心に仁愛の精神を培い、その上に現代の科学、技術、知識を習得させ、国家、社会の発展と人類の安心、平和、幸福の実現に寄与できる人物を育成する。

麗澤教育のめざす人間像

1. 大きな志をもって真理を探究し、高い品性と深い英知を備えた人物
2. 自然の恵みと先人の恩恵に感謝し、万物を慈しみ育てる心を有する人物
3. 自ら進んで義務と責任を果たし、国際社会に貢献できる人物

麗澤幼稚園の教育目標

- 思いやりのある子（思いやりの心）
- 感謝のできる子（感謝の心）
- たくましい子（自立の心）

【評価基準】

1：不十分 2：やや不十分 3：どちらともいえない 4：実施できた 5：しっかりと実施できた

1.教育について

評価項目	評価	取り組み状況
① 教育目標である「思いやりのある子（思いやりの心）、感謝のできる子（感謝の心）、たくましい子（自立の心）」を理解し、目標達成のために心のドリル等も活用しつつ、日々の保育や活動が工夫できているか。	5	教育目標である三つの心を常に意識し、友だちとの関わりや異年齢交流、行事などを通して子どもの心の育ちを大切にしながら、一人ひとりに寄り添った援助・指導を行った。また、自分の思いや意見を言葉で伝えられるよう、発表の場や子ども同士の話し合いの機会を設けるなど、状況に応じた言葉の指導にも努めた。相手を思いやる姿や、苦手なことにも挑戦しようとする姿が見られ、促されずに挨拶や感謝の言葉を伝えるなど、心の育ちが感じられた。朝の会ではその日の様子に応じた心のドリルを取り入れ、日々の保育の中で心を育てるための工夫を重ねてきた。
② 園児の基本的な生活習慣を確立するための指導や援助はできているか。	5	所持品の始末や管理、ロッカーの整理整頓、身だしなみについて、その都度丁寧に伝え、自分で意識して行動できるよう指導に努めた。また、トイレでのスリッパをそろえることや手洗い、食事のマナーについても、学年に応じた指導を行い、基本的な生活習慣の定着が見られた。
③ 子ども達が様々な体験を通して、諦めずにやり遂げる達成感や、友達と協力する喜びを味わっているか。また、当番活動等を通じて、責任感や人の役に立つ喜びを体験できているか。	5	様々な場面で、友だちと協力しながら活動を楽しむ姿が見られた。苦手なことに挑戦する場面では、友だちが手本を示したり励ましたりする姿があり、友だちの存在が意欲につながり、根気よく取り組む様子が見られた。運動会や発表会などの園行事においても、協力して取り組む中で達成感を味わい、自信につながる経験ができた。また、当番活動だけでなく、自ら手伝いを申し出る姿も見られ、任された役割に責任感を持って意欲的に取り組む様子から、人の役に立つ喜びを感じていることがうかがえた。

④ 異年齢交流等を通して、子ども達に思いやりの心や感謝の心を育むことができているか。	5	年長児と年中児の芋掘りでは、年長児がペア児を気遣う姿が見られた。様々な交流活動を通して、ペア同士の関係が深まり、こうした関わりの中で、上級児には思いやりの心が、下級児には憧れの気持ちが育ち、互いに慕い合う姿が多々見られた。他学年の遊びに加わったり、郵便ごっこでペア児に手紙を書いたり、ペア児を気遣い保育室を訪ねたりするなど、自然なかかわりも広がった。1年間のペア活動の終了やペア児の卒園を前に、寂しさから涙する姿も見られた。ペア児との関わりを通して、同学年の友だちにも困り事があった際に優しく手を差し伸べる姿もあり、異年齢交流を通して思いやりや感謝の心を十分に育むことができたと感じる。
⑤ 立腰教育を通して、話を聞く姿勢を養うことができているか。	5	朝の会や活動時など、話を聞く際には、立腰の姿勢が保てるよう指導を行い、正しい姿勢を意識して取り組んできた。特に年少組では、今年度より園児の身長に合った椅子のサイズに変更し、足が床につく環境を整えたことで、良い姿勢を保ちやすくなり、全員が落ち着いて話を聞くことができた。こうした取り組みにより、年少組は1学期から徐々に立腰の姿勢が身に付き、学年が上がるごとに長時間集中して話を聞く姿勢も育ってきていると感じる。
⑥ 特別活動（体育指導・英語教育）を通して、子ども達の成長を促す援助がなされているか。	5	英語教育については、日々のレッスンを通して英語に触れる機会を重ねる中で、子どもたちが言葉としての英語に親しみを持つ様子が見られた。覚えた単語や表現を生活や遊びの中で使おうとする姿も見られ、英語が身近なものとして受け止められていることが感じられた。専任講師の補助を担う中で、保育者も日常の関わりの中に英語を取り入れ、楽しさにつながるよう意識した。 体育指導については、専任講師の指導を受けながら、子どもたちは体を動かすことへの意欲を高めていた。鉄棒や雲梯、縄跳びなどに繰り返し取り組む中で、すぐにできなくても諦めずに挑戦を続ける姿が見られ、経験を積み重ねながらできることを広げていく様子が見られた。
⑦ 園庭や学園の豊かな環境を通して自然現象や虫、植物等に親しみ、探求心や好奇心を育てているか。	4	園庭や学園内の散策等を通して、季節の変化や自然現象、虫や植物に触れる機会を多く持つことができた。年少組・年中組による花栽培の経験や年長組によるお米や畑の栽培の経験を通じて、好奇心や探求心を育むことができた。日々の遊びや生活の中で気づいたことをきっかけに観察を深めたり、不思議に感じたことを確かめようとしたりする姿が見られ、自然への関心が広がっている様子が見られた。身近な環境に繰り返し関わる中で、探求心や好奇心をもって関わろうとする姿が育まれている。
⑧ 季節の行事を通して日本や世界の文化に親しみ、心豊かで逞しい子に育てることはできているか。	4	季節ごとの行事を通して心豊かで逞しい子に育つよう、指導援助することができた。また祝日や、季節の行事では自分の周りにいる人たちのおかげで今があることを伝え、両親やご先祖様そして周りの人や物に対しても感謝の気持ちが持てるような声かけや絵や紙芝居などを用いた指導を行った。また、子どもたちが日本の国に生まれたことに感謝できるよう心掛けた。餅つきを実施し、全員が餅を搗く経験をして日本ならではの文化にも親しむことができた。

2.保護者との連携について

評価項目	評価	取り組み状況
① 子ども達の園での姿について保護者に十分に伝えられているか。	5	降園時には、その日の子どもたちの様子や連絡事項、保育の取り組みについて丁寧に伝えるとともに、子どもの成長や頑張りも具体的に伝えるよう心がけた。就労している保護者に対しては、預かり保育のお迎え時に様子を伝えられるよう務めた。学年便りやクラスだよりにおいては、子どもたちの姿や成長の様子が伝わるよう工夫した。 さらに、保育参観や個人面談、懇談会の機会を通して、子どもの成長を共有し、保護者と有意義な話し合いを行えるよう心掛けた。
② 園児の成長や課題について保護者との情報共有がしっかりとできているか。	4	担任は、園児一人ひとりの日々の姿を成長記録として継続的に残し、できるようになったことや心の育ちなどの成長面とともに、課題についても把握できるようにしている。これらをもとに子どもの姿を振り返りながら、指導や援助に活かしている。また、必要に応じて個別に話す機会を設けるなど、保護者と丁寧に情報共有を行い、連携を図ることを心がけている。
③ 保護者が園児の発達について相談しやすい環境となっているか。	4	本園は送迎時に保護者と直接顔を合わせる機会が多く、日々のやり取りの中で子どもの様子について気軽に相談できる環境となっている。降園時に限らず、必要に応じて個別に相談できる時間も設け、家庭との連携に努めている。また、内容に応じて主任や学年主任も交えながら対応し、保護者が安心して相談できる体制を整えている。

3.教職員について

評価項目	評価	取り組み状況
① 現状に満足することなく、保育者が日々保育内容の充実や改善・工夫をしているか。	5	日々の保育において、子どもの姿や反応を踏まえながら活動内容を見直し、より充実した保育となるよう工夫を重ねてきた。今年度は、保育者がそれぞれ研修として他園見学に参加し、他園の取組から得た視点や工夫を自園の保育に取り入れることで、改善に向けた実践を進めた。実践の中で得た気づきを次の保育に活かし、環境構成や関わり方を調整するなど、保育の質の向上に努めている。
② 教育や保育の課題について教職員間での情報共有・連携がしっかりとされているか。	4	教職員全員で子どもたちの成長を見守るという共通理解のもと、日々の保育の中で子どもの様子や育ちについて教職員間で情報共有を行っている。特に配慮が必要なケースについては、毎日の職員朝礼や週1回の定例会、月1回の学年主任会議において、教育・保育内容や課題について話し合いを重ね、共通理解を図りながら連携した対応に努めている。
③ 研修や研究を通じて保育者が自己研鑽に務めているか。	5	研修や研究への参加を通して、保育者一人ひとりが専門性の向上に努めている。今年度は他園見学をはじめとした研修に積極的に参加し、得られた学びや気づきを日々の保育に取り入れることで、実践の充実につなげている。また、学びを共有し合う中で、保育の質の向上に向けた意識が高まっている。

4.幼稚園全体について

評価項目	評価	取り組み状況
① 施設・設備の定期的な点検や清掃・整理整頓等、子ども達にとって安心・安全な環境となるように努められたか。	5	日々の教職員による遊具の点検や清掃・整理整頓を行い、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに努めている。また、本園舎および子育ての森どんぐりにおいて、専門業者による年1回の定期点検を実施し、その結果を踏まえた修繕を行うことで、安全性の維持に取り組んだ。今年度は老朽化したジャングルジムを撤去し、新たな遊具を導入するとともに、落下時の衝撃を和らげる人工芝を敷設し、安心して遊べる環境を整えた。さらに、産業医による職場巡視の指摘事項についても随時改善を行い、継続的な環境整備に努めている。
② 子育て支援事業を積極的に展開することができたか。	3	子育て支援事業については、未就園児とその保護者が安心して参加できる場の提供に努めた。今年度は、あかちゃん教室の開設回数を増やすとともに、子育て広場「あいあい」の会場環境を整え、より過ごしやすい空間となるよう工夫した。継続的な参加を通して、親子が園に親しみを持ちながら交流を深める様子が見られている。預かり保育については利用の希望が多い状況が続いており、今後も安心して利用できる体制づくりに努めていく。
③ 保育参観・懇談会、HPや園便りを通じて、園児の様子や子育てに関する情報を積極的に発信、公開できたか。	2	保育参観や懇談会を通して、園での子どもたちの様子や子育てに関する情報を伝える機会を設けた。また、子育てクラブれいたくっこでの発信に加え、ホームページやInstagramを活用し、日々の園の様子や取り組みについて分かりやすく伝えるよう努めた。様々な方法を通して情報発信を行うことで、保護者が園での生活を身近に感じられるよう取り組んでいる。 一方で、行事の変更等に関する連絡については、書面で周知を行ったものの、伝達のタイミングや内容の分かりやすさにおいて十分とは言えない場面も見られ、保護者への伝わり方に課題が残った。保護者にとって分かりやすく、安心して受け止められる情報提供の重要性を改めて認識した。今後は、伝達の時期や方法、内容を工夫し、より丁寧で分かりやすい情報発信に努めていく。

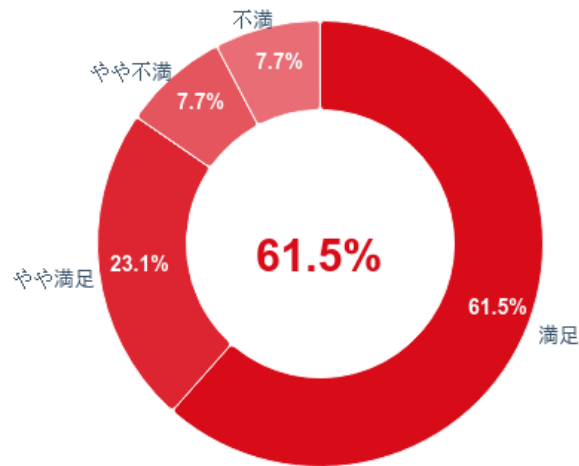
令和7年度 麗澤幼稚園 学校関係者評価

実施日：令和8年3月28日～4月3日

実施方法：WEBによるアンケート

評価委員：父母の会役員20名（内回答13名）

Q1.本園の運営・保育内容について、総合的にどのくらい満足していますか。



Q2.本園の運営・保育内容に対して回答した理由をお書きください。【抜粋・要約】

【評価された点】

教職員の愛情ある関わりや丁寧で温かな保育、園児一人ひとりに寄り添った支援について、高く評価する意見が多く見られた。特に、日々の相談・報告の丁寧さ、子どもの特性に応じた柔軟な対応、子どもが安心して楽しく通園できていることに対する満足の声が多く寄せられた。また、自然環境を生かした活動や、園全体で子どもの成長を支える姿勢も、本園の良さとして評価されている。

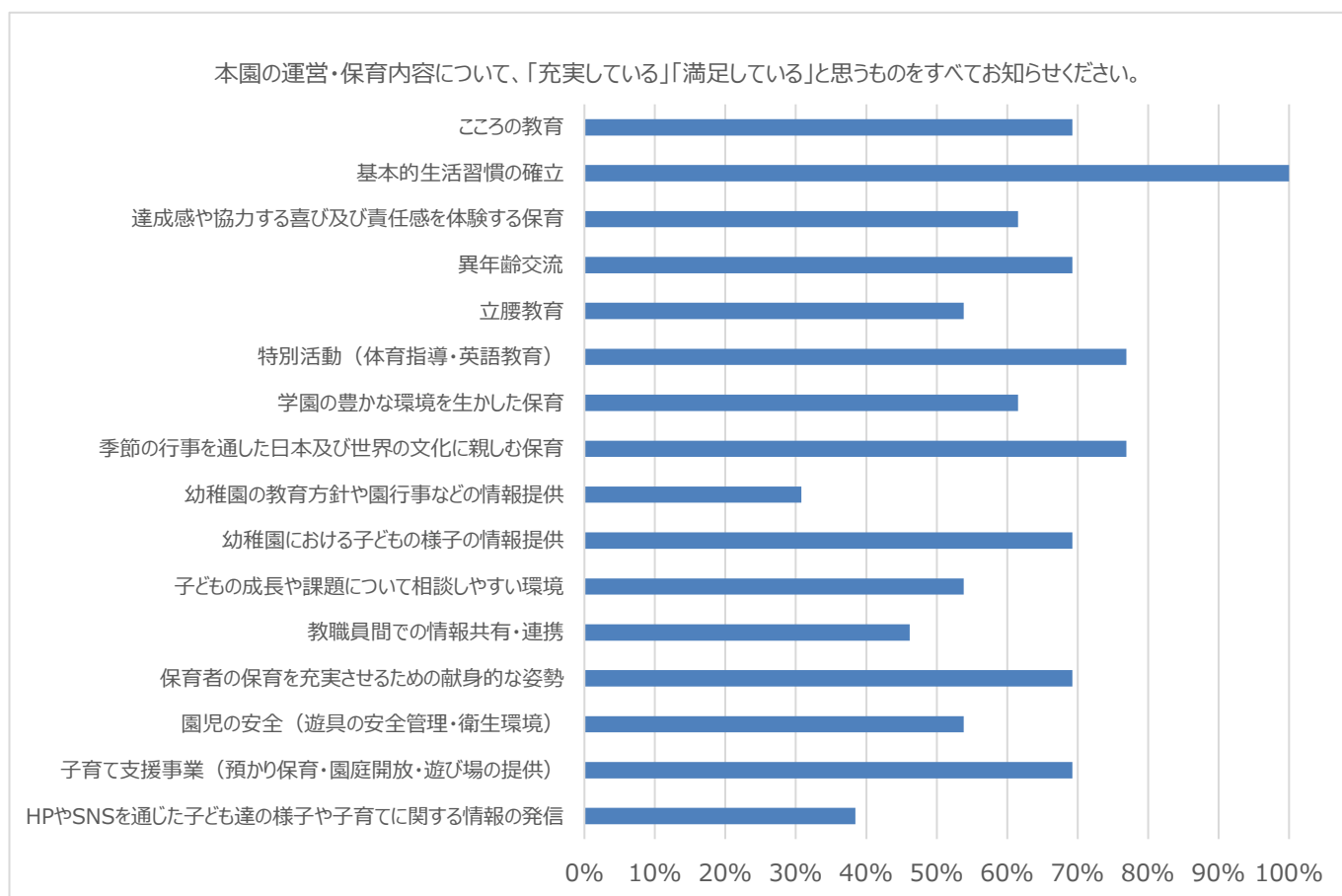
【改善への期待や要望として見られた点】

一方で、行事や保育内容において削減・簡略化された点が増え、園の特色や従来の良さが薄れてきたと感じる意見も見られた。また、保護者アンケートや意見に対する回答・説明が十分に伝わっていないことを課題として挙げる声があった。今後は、保育内容や運営上の変更について保護者への丁寧な説明を行うとともに、本園らしさを大切にしながら教育活動の充実が期待されている。

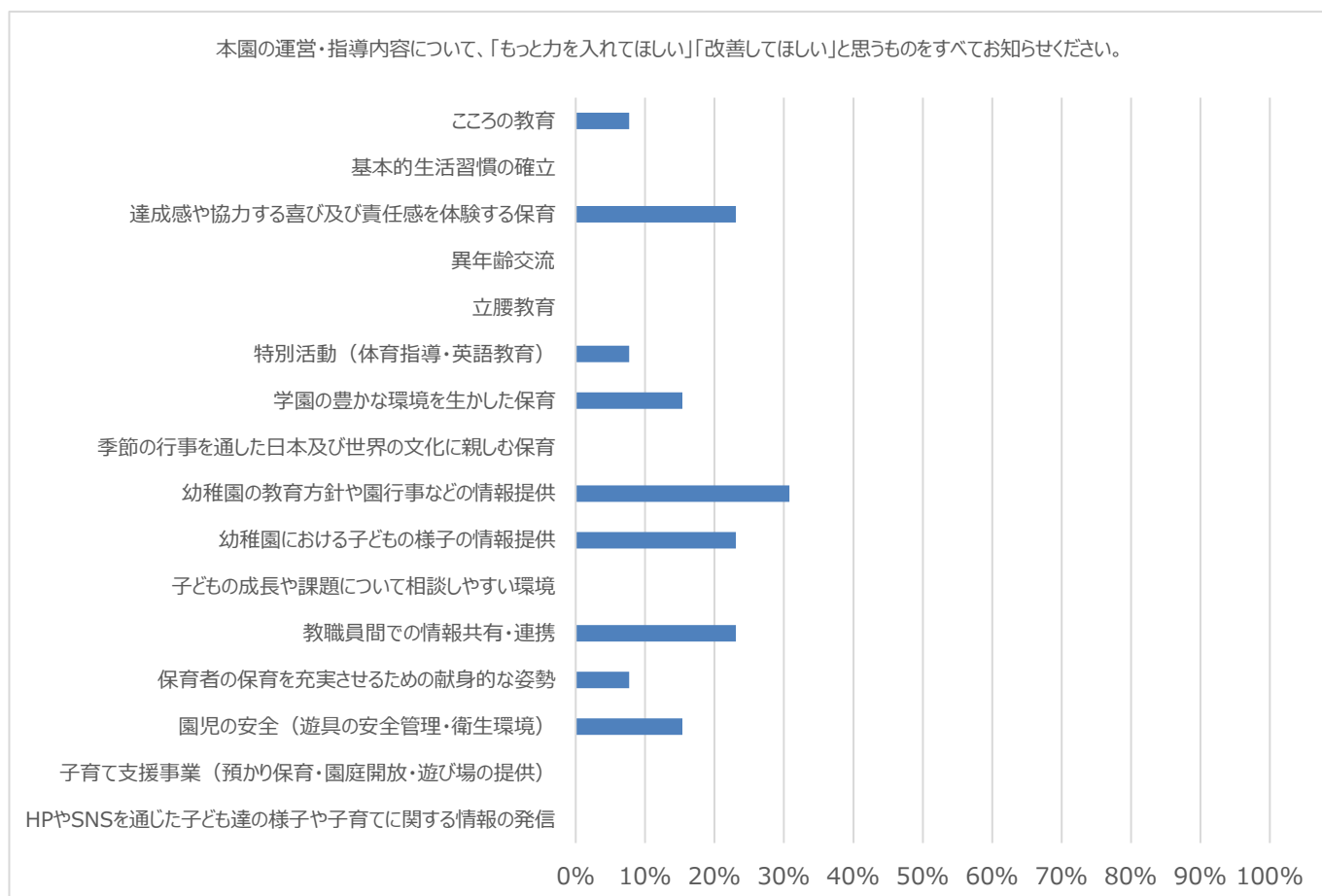
【園としての対応】

本園の保育や教職員の対応について温かい評価をいただいたことを踏まえ、今後も園児一人ひとりの思いや育ちに寄り添った保育を継続していく。あわせて、保育内容や行事等の見直しにあたっては、本園の特色を十分に生かしながら進めるとともに、保護者に対する説明や情報発信の充実を図り、相互理解と信頼関係の一層の向上に努める。

Q3.本園の運営・保育内容について、「充実している」「満足している」と思うものをすべてお知らせください。



Q4.本園の運営・指導内容について、「もっと力を入れてほしい」「改善してほしい」と思うものをすべてお知らせください。



Q6. 本園の運営・指導内容、または教職員に対してご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。【要約・抜粋】

【評価された点】

教職員が笑顔で温かく子どもに接し、安心して預けられる環境が整っていることに対する感謝や高い評価が多く寄せられた。特に、教職員同士の良好な関係や働きやすい環境が、安定した保育につながっている点を評価する意見が見られた。また、心の教育や日本文化・年中行事に触れる学びなど、本園ならではの教育内容の充実を期待しつつ、その価値を高く認める声もあった。加えて、父母の会の運営について、保護者負担の軽減に配慮されていることを評価する意見も見られた。

【今後の工夫が期待される点】

預かり保育利用者にも日々の教育活動の様子が伝わるような情報共有の充実や、園の特色ある取組を便りや SNS 等でより広く発信してほしいという要望が見られた。また、行事や保育内容の簡略化・削減については、理由や考え方を丁寧に説明してほしいという意見があった。あわせて、以前に比べて園と保護者との報告・連絡・相談の機会が減り、つながりの希薄化を感じるという声も寄せられた。さらに、学級委員の選出方法、送迎時間の設定、子どもに直接関わる内容の見直し方などについて、保護者や子どもの実情に配慮した運営を望む意見が見られた。

【園としての対応】

教職員の関わりや園の教育環境に対し、温かい評価と励ましの言葉をいただいたことを大変ありがたく受け止めている。今後も、子どもたちが安心して園生活を送り、本園ならではの心の教育や日本文化に触れる学びを深められるよう、教育内容の充実に努めていく。

あわせて、預かり保育を含む日々の活動の伝え方や、園の取組の発信方法について見直しを進め、保護者にとってより分かりやすい情報共有に努める。また、行事や保育内容の見直しにあたっては、その趣旨や理由を丁寧に伝えるとともに、子どもに直接関わる内容については本園の特色を大切にしながら慎重に検討していく。さらに、学級運営や送迎等についても、保護者の意見を参考にしながら、よりよい運営のあり方を工夫していく。

以上